

鶴見区将来ビジョン（2023～2027）

「めざすべき将来像」の実現に向けて

令和5年4月
大阪市鶴見区役所

はじめに

- これまでの5年間（2018～2022）では、めざすべき将来像としての「つながり、ふれあい、みまもり、支え合う、だれもが安心して暮らせるまち」の実現に向け、4つの柱を軸に取り組を進めてまいりました。
- 各種施策・取り組みについては、概ね想定どおりに進捗していたものの、新型コロナウイルス感染症拡大のため、多くの取り組みが中止や変更を余儀なくされました。
- そのため、今後は新型コロナウイルス感染症に係る感染状況を含め、外部環境の変化に柔軟に対応していく必要があります。
- これからの5年間（2023～2027）では、これまでのめざすべき将来像にSDGsの理念である「誰一人取り残さない」というキーワードを新たに付け加えたうえで、その実現に向けた持続的かつ安定的な施策を推し進めます。

鶴見区将来ビジョン (2023～2027)

I

区将来ビジョン策定にあたって

- | | |
|--------------------------------|--------|
| 1 区将来ビジョンの位置づけ | P 4 |
| 2 区将来ビジョンの変遷 | P 5 |
| 3 この5年間（2018～2022）の振り返り | P 6～10 |
| 4 今後5年間（2023～2027）に向けての基本的な考え方 | P11 |

II

鶴見区の概要（統計データ）

P12～17

III

鶴見区将来ビジョン（2023～2027）

- | | |
|---------------|--------|
| 1 全体像 | P18 |
| 2 施策展開の方向性・施策 | P19～22 |
| 3 施策毎の主な取組み | P23～28 |

1 区将来ビジョンの位置づけ

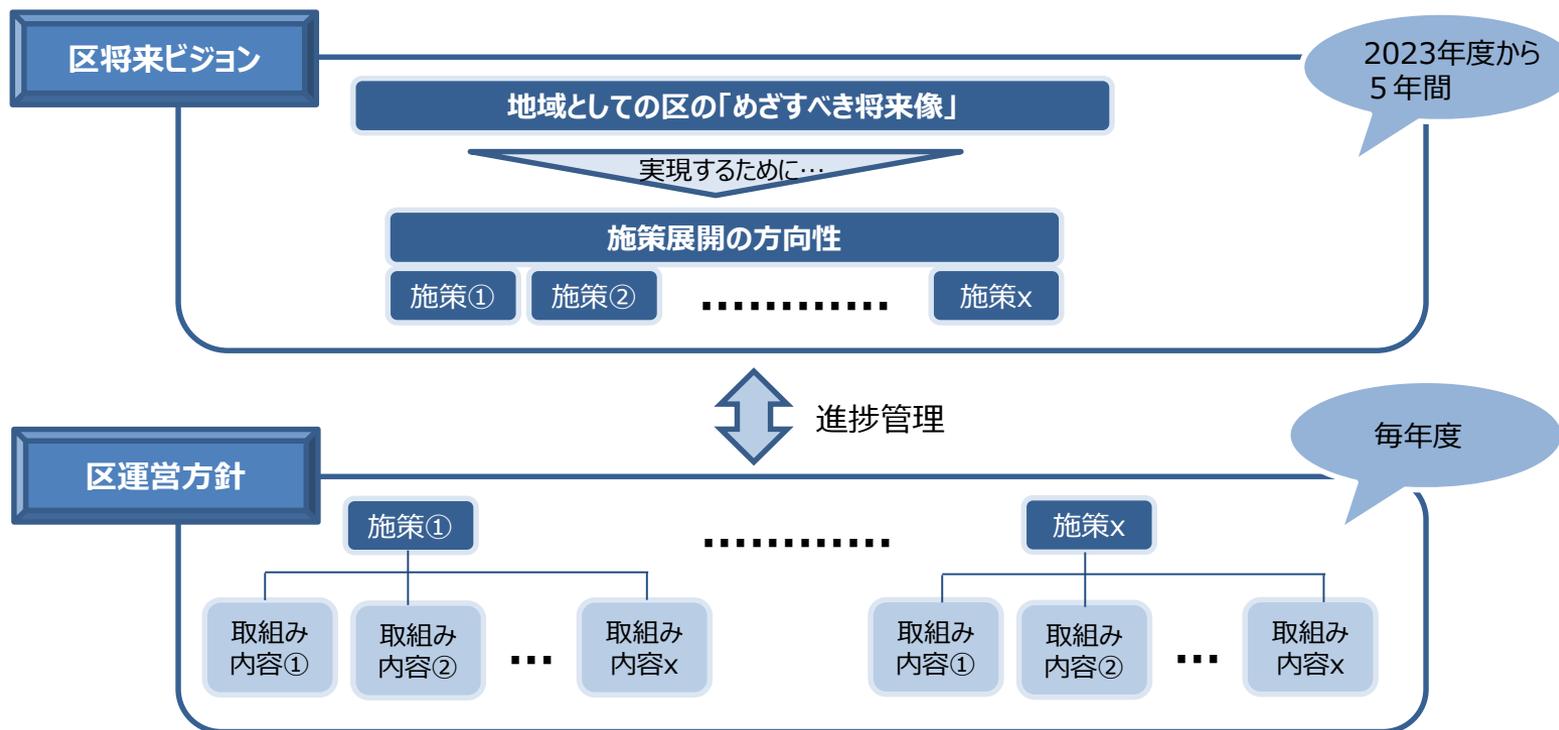
「区将来ビジョン」の策定趣旨

区長が区シティ・マネージャー及び教育委員会事務局区担当教育次長（以下「区長」という。）として所管する事務も含め、区内の基礎自治体行政を総合的に推進していく上で、**地域としての区のめざすべき将来像**、将来像の実現に向けた**施策展開の方向性**等を取りまとめ、区民の方々に明らかにします。

区運営方針

「区運営方針」は、「区将来ビジョン」で示された施策展開の方向性に沿って年度ごとの施策・事業の取組みを明らかにする単年度ごとのアクションプランです。

区長は毎年度の「区運営方針」に係るPDCAサイクルを通じて、「区将来ビジョン」を適切な方法で進捗管理します。



2 区将来ビジョンの変遷

2013～2017年度
(H25～H29年度)

めざすべき将来像

だれもが「住んでよかった」と笑顔で言えるまち

施策展開の方向性

- 1 集客・にぎわいの創出
(区の魅力創造)
- 2 地域コミュニティの活性化
(地域社会全体で支えあうコミュニティづくり)
- 3 青少年健全育成・子育て支援
(次世代育成に向けたまちづくりの推進)
- 4 安全・安心な暮らし
(誰もが安心して暮らせるまちづくりの推進)
- 5 区役所力の強化
(区役所力の強化)

2018～2022年度
(H30～R4年度)

めざすべき将来像

つながり、ふれあい、みまもり、支えあう、だれもが安心して暮らせるまち

施策展開の方向性

- 1 つながる・支えあう
(住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり)
- 2 備える
(安全なまちづくり)
- 3 育てる・まなぶ
(子育てとまなびを応援するまちづくり)
- 4 聞く・伝える
(区民への必要な情報の発信)

3 この5年間（2018～2022）の振り返り

鶴見区将来ヴィジョン（2018～2022）を構成する「4つの柱」並びに「施策展開の方向性」、「施策」について

1 つながる・支えあう（住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり）

■住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり

地域に関わるすべての人が力をあわせ、共に生き共に支え合い、みんなが生活を共に楽しむ地域をつくり上げるため、「鶴見区地域保健福祉ヴィジョン」の5つの基本目標に沿って取組みを推進します。

2 備える（安全なまちづくり）

■災害に強いまちづくり

今後想定される大規模な自然災害に対する備えとして、区民の防災意識の向上と、地域防災力の強化に向けた支援、区災害対策本部の機能強化に努めます。

■街頭犯罪・交通事故の少ないまちづくり

鶴見区を安全なまちにするため、地域、関係機関、事業所等と連携し街頭犯罪の抑止に取り組みます。また、交通事故の減少や自転車マナーの向上をめざし、啓発活動に取り組みます。

3 育てる・まなぶ（子育てとまなびを応援するまちづくり）

■安心して子育てできるまちづくり

地域の関係機関や関係団体と連携し、子育てに必要な情報を的確に発信するとともに、親子が気軽に立ち寄り、親子で一緒に交流したり、子育ての相談ができる機会・場所の提供など、安心して子育てできる環境づくりを進めます。

■まなびを通じたつながりづくり

幅広い層に「まなびの場」を知ってもらうとともに、「まなび」を通じたつながりづくりを進めます

■学校教育支援の取組み

区役所が学校や地域、保護者のニーズや意向を把握し、効果的な学校支援を進めます。

4 聞く・伝える（区民への必要な情報の発信）

■情報・魅力発信・総合窓口の充実

区民に身近な総合行政窓口としての機能を充実させるとともに、あらゆる年代に応じたきめ細かな区政情報や、区への愛着を醸成する魅力の発信に取り組みます。

3 この5年間（2018～2022）の振り返り

（参考）成果指標

1 つながる・支えあう（住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり）

運営方針 アウトカム指標	H30年度	R03年度
困った時（いざという時）に助けてくれる人がいると感じている区民の割合（※）	89%	—
日常生活の中で「お元気ですか？」や「何かお困りですか？」、「留守の間の植木の水やりお願い」など、住民同士の「声かけ」「見守り」「支えあい」が行われていると感じる区民の割合（※）	37.9%	—
日常生活の中で「お元気ですか？」や「何かお困りですか？」など住民同士の「声かけ」「見守り」「支えあい」が行われていると感じる区民の割合（※）	—	26.4%
肥満者やメタボ予備軍の該当者の割合	肥満者 25.5% メタボ予備軍 18.4%	—
運動や食生活など、健康に関する取組みを行っている区民の割合（※）	—	87.1%

2 備える（安全なまちづくり）

運営方針 アウトカム指標	H30年度	R03年度
災害時の避難場所について確認し、いざという時に備えている区民の割合（※）	85.7%	79.4%
安全で住みやすいまちと感じている区民の割合（※）	86.6%	91.5%

※区民アンケートにて肯定的な回答をした区民の割合

※目標値を下回った箇所は「色付け」

（参考）成果指標

3 育てる・まなぶ（子育てとまなびを応援するまちづくり）

運営方針 アウトカム指標	H30年度	R03年度
鶴見区は子育てしやすいまちだと感じている区民の割合（※）	78%	83.7%
鶴見区は子育てしやすいまちだと感じている子育て世帯の区民の割合（※）	90%	92%
生涯学習の取組みに参加することにより、「まなびを通じたつながりを感じる」と答える区民の割合	71%	—
「まなびを通してつながりを感じている」と回答した区民の割合（※）	—	66.1%
「人権尊重のまちづくりが進んでいる」と回答した区民の割合（※）	—	39%
学校や保護者のニーズ、意向を教育行政に反映していると思う校長・教頭の割合	94.1%	97%

4 聞く・伝える（区民への必要な情報の発信）

運営方針 アウトカム指標	H30年度	R03年度
区の様々な取組（施策・事業・イベントなど）について、区の広報紙、ホームページ、ツイッター、フェイスブックなどにより、区役所から必要な時に必要な情報が届いていると思う区民の割合	53.4%	—
鶴見区が実施している広報（区広報紙「広報つるみ」、区ホームページ、区広報板など）で、必要とする区政情報が必要なときに入手できていると思う区民の割合（※）	—	67.6%

※区民アンケートにて肯定的な回答をした区民の割合

※目標値を下回った箇所は「色付け」

3 この5年間（2018～2022）の振り返り

（参考）成果指標

1 つながる・支えあう（住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり）

運営方針	アウトカム指標 目標達成・未達成別	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度
経営課題 1	目標値を上回った戦略（施策）	2	1	2	2
経営課題 5	目標値を下回った戦略（施策）	0	1	1	1

2 備える（安全なまちづくり）

運営方針	アウトカム指標 目標達成・未達成別	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度
経営課題 4	目標値を上回った戦略（施策）	2	2	2	1
	目標値を下回った戦略（施策）	0	0	0	1

3 育てる・まなぶ（子育てとまなびを応援するまちづくり）

運営方針	アウトカム指標 目標達成・未達成別	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度
経営課題 2	目標値を上回った戦略（施策）	3	3	3	3
経営課題 3	目標値を下回った戦略（施策）	0	0	0	0

4 聞く・伝える（区民への必要な情報の発信）

運営方針	アウトカム指標 目標達成・未達成別	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度
経営課題 5	目標値を上回った戦略（施策）	1	1	－	－
（R01まで）	目標値を下回った戦略（施策）	0	0	－	－

3 この5年間（2018～2022）の振り返り

まとめ

- この5年間（2018～2022）にわたり、当該期間のめざすべき将来像である「つながり、ふれあい、みまもり、支えあう、だれもが安心して暮らせるまち」の実現に向けて、各種施策を推進し、その実現を目指した取組みを進めてきました。
- 各種施策・取組みについては、概ね想定どおり進捗していたものの、新型コロナウイルス感染症拡大のため、多くの取組みが中止や変更を余儀なくされ、一部の計画・目標には未達となったものもあります。
- 達成したものについては、引き続き課題解決に向けた施策を展開することとし、また未達成のものについては、原因を探求したうえで課題を設定し、改善策を検討していくといったPDCAサイクルの徹底を図っていく必要があります。
- とりわけ、新型コロナウイルス感染症拡大による影響が大きかったものについては、従来の取組みに拘ることなく、ウィズコロナにおいても実施できる具体的な取組みを模索・実践していく必要があります。
- また、これからの5年間（2023～2027）の区将来ビジョンの策定にあたっては、新型コロナウイルス感染症に係る感染状況も含めた環境変化への対応を整理する必要があります。

4 今後5年間（2023～2027）に向けての基本的な考え方

- この5年間の振り返りを通して、これまでの「施策展開の方向性」の4つの柱については、引き続き、課題解決に向けた施策を展開するとともに、PDCAサイクルの徹底を図るものであることから、今後5年間（2023～2027）に向けても継続していくことを基本として必要な修正・更新を行っていくものとします。

【再掲】

これまでの
「施策展開の方向性」

1. つながる・支えあう（住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり）
2. 備える（安全なまちづくり）
3. 育てる・まなぶ（子育てとまなびを応援するまちづくり）
4. 聞く・伝える（区民への必要な情報の発信）

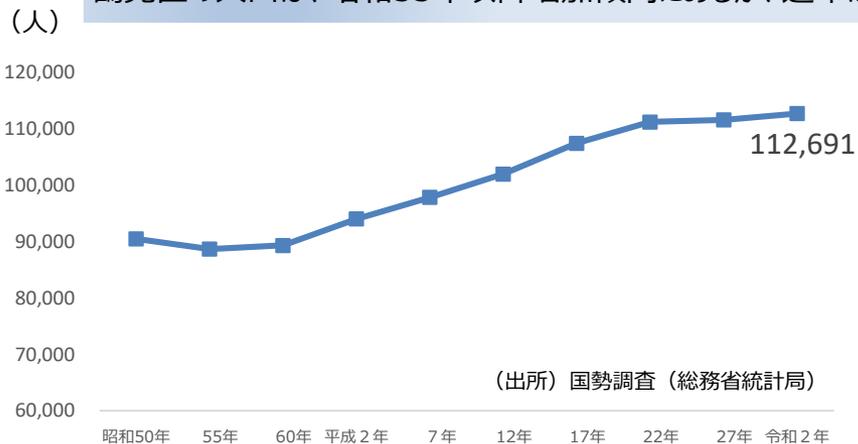
- とりわけ、ウィズコロナにおいても実施できる具体的な取組みに係る模索・実践については、各種事業の特性等をはじめ、取り巻く環境や実情を踏まえたうえで、効果的な方策を検討し、実施していきます。

- また、区政運営を図っていくうえで、H30年度以降の社会や環境変化を踏まえたものとします。

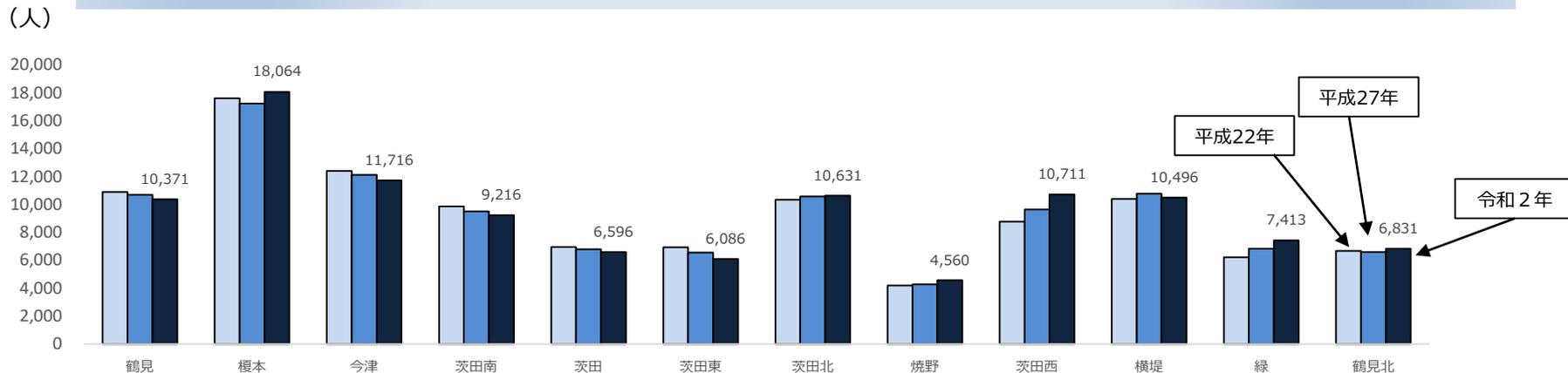
- 【例】
- ✓ コロナ禍を契機とした社会変化（コミュニケーション手法の多様化、安全志向や衛生意識の高まりなど）
 - ✓ 持続可能な開発目標（SDGs）への意識の高まり など

- なかでも、2030年までを目途とする持続可能な開発目標（SDGs）は、行政が進めているさまざまな取組みとも密接な関わりがあるため、本市においても、SDGsの達成に向けた取組みの推進、SDGsの理念の普及や理解の促進に努めています。鶴見区としても従来の4つの柱とは別に、SDGsの理念を念頭に柱を新たに掲げ、積極的に取り組んでいきます。

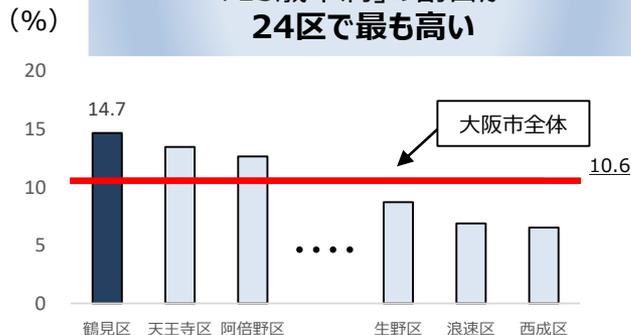
鶴見区の人口は、昭和55年以降増加傾向にあるが、近年はゆるやかなものとなっている



地域別（12地域）の直近10年間の人口（H22→R02）では、全体的に微増・微減の傾向にある地域によっては顕著な増加（茨田西（22%増）、緑（19%増））・減少（茨田東（12%減））が認められる



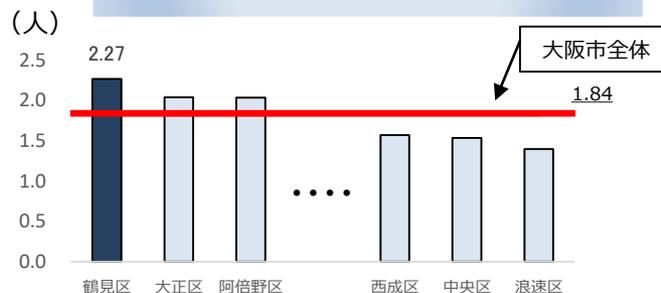
年齢別人口構成比のうち、「15歳未満」の割合が24区で最も高い



【年齢3区分別構成比】（出所）令和2年国勢調査（総務省統計局）

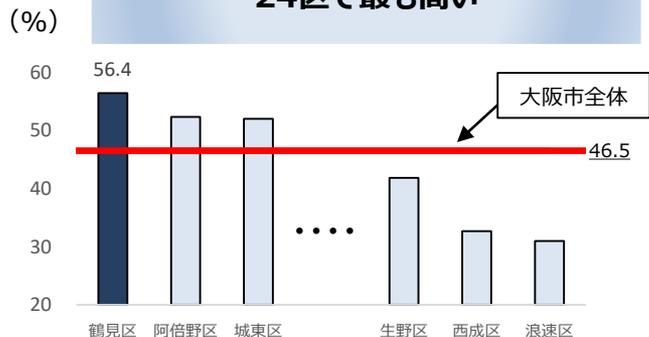
注) 不詳補完値による。

1世帯当たり人員が24区で最も多い



【一般世帯の1世帯当たり人員】（出所）令和2年国勢調査（総務省統計局）

配偶者がいる割合が24区で最も高い

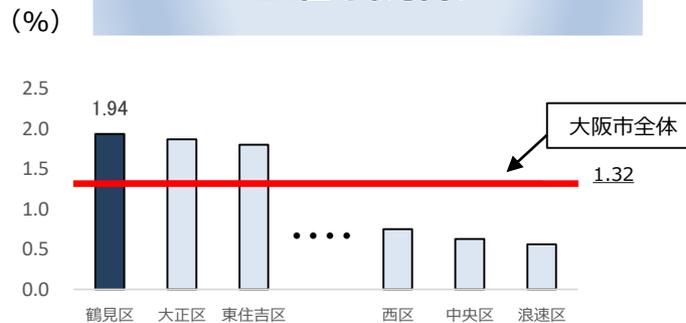


【配偶関係別人口】（出所）令和2年国勢調査（総務省統計局）

(※「配偶者別」は未婚、有配偶、死別、離別に区分)

注) 不詳補完値による。

3世代での世帯数の割合が24区で最も高い



【世帯員の年齢による世帯の種類別一般世帯数及び3世代世帯数】（出所）令和2年国勢調査（総務省統計局）

昼夜間人口比率※が83.5であり、24区で最も低い

➔ 大阪市内でも、区内で暮らし、区外へ通勤・通学される方が比較的多い傾向

(千人)

600

(※昼夜間人口比率 = 昼間人口 ÷ 夜間人口 × 100)

600

500

500

400

400

300

300

200

200

100

100

0

0

中央区 北区 西区 天王寺区 浪速区 此花区 淀川区 住之江区 福島区 阿倍野区 大正区 西淀川区 港区 西成区 都島区 生野区 東成区 東淀川区 平野区 旭区 住吉区 東住吉区 城東区 鶴見区

夜間人口
(←左目盛)

昼間人口
(←左目盛)

昼夜間人口比率
(右目盛→)

鶴見区
昼間人口 : 94,103人
夜間人口 : 112,691人

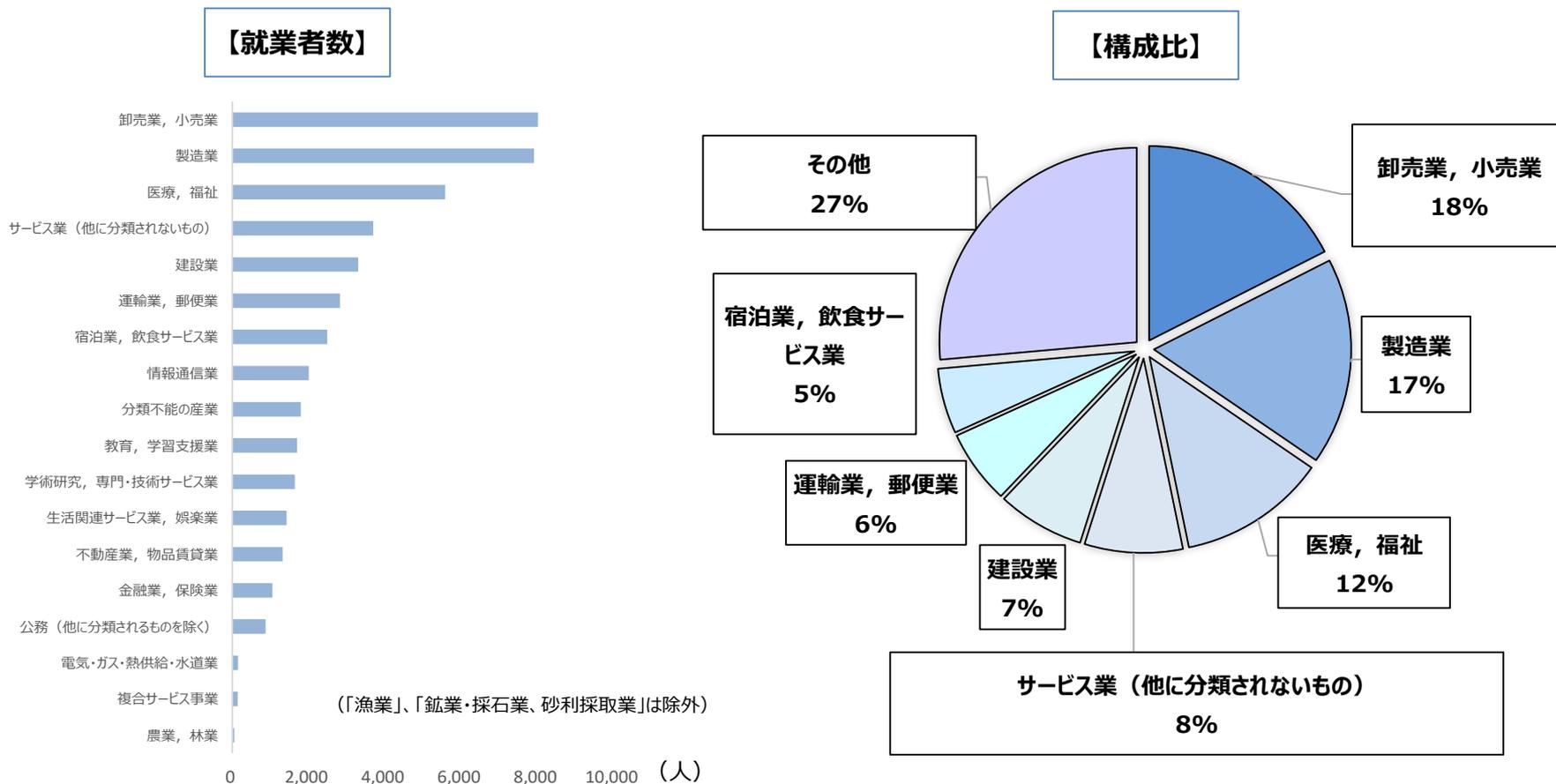
83.5

【常住地又は従業地・通学地別人口及び昼夜間人口比率】（出所）令和2年国勢調査（総務省統計局）

注）不詳補完値による。

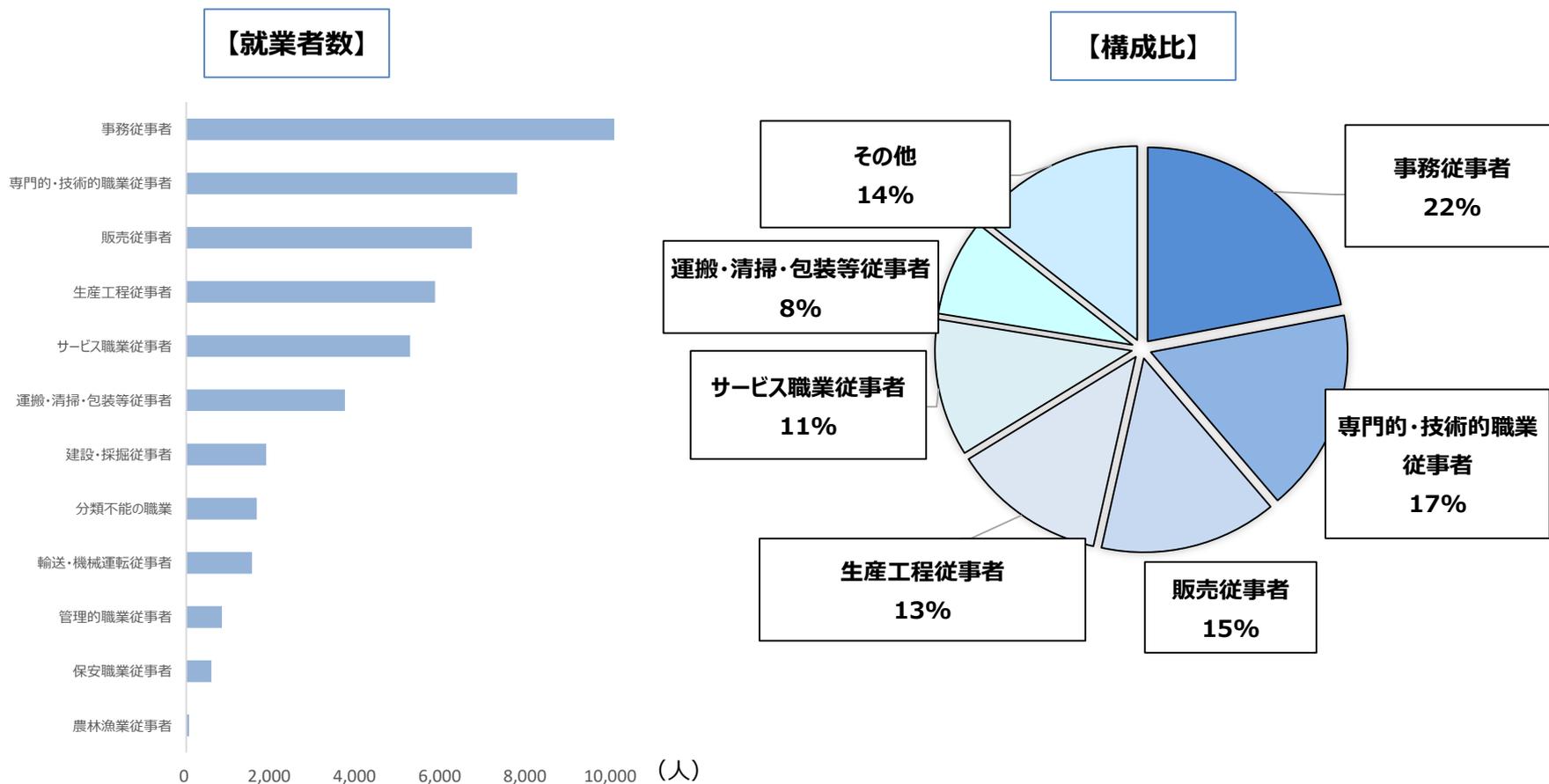
鶴見区の就業者が従事する産業について、「卸売業、小売業」に従事する区民が最も多い

産業（大分類）※ 別人口〔産業別〕（15歳以上就業者）（※「産業」とは、就業者について、その人が実際に仕事をしていた事業所の主な事業の種類によって分類したものをいう）

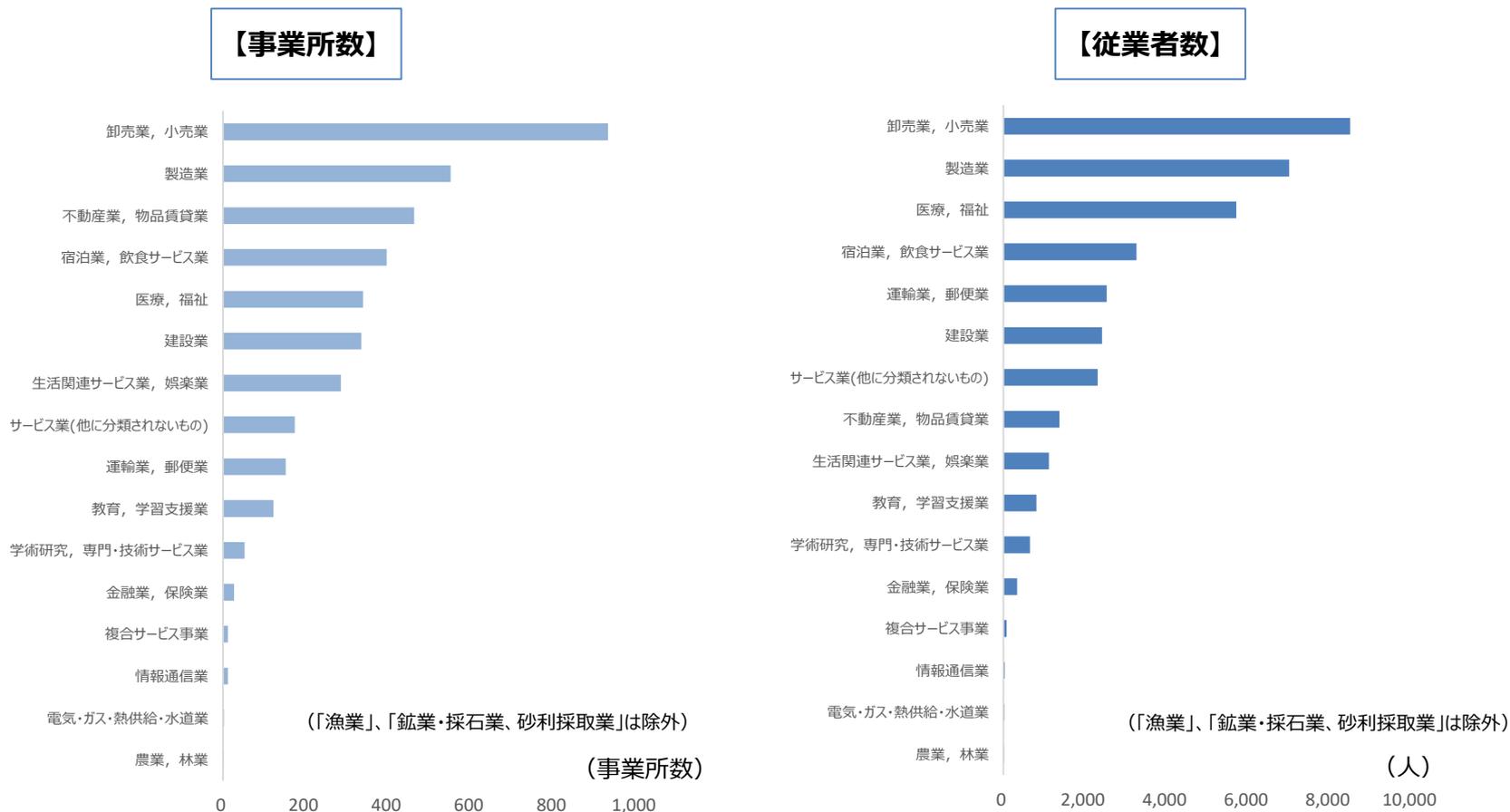


鶴見区の就業者の職業について、「事務従事者」が最も多い

職業（大分類）[※] 別人口〔職業別〕（15歳以上就業者）（※「職業」とは、就業者について、その人が実際に従事していた仕事の種類によって分類したものをいう）



鶴見区の民間事業所を産業大分類別にみると、事業所数では「卸売業、小売業」が最も多く、従業者数でも「卸売業、小売業」が最も多い



(出所) 平成28年経済センサス－活動調査（総務省・経済産業省）